

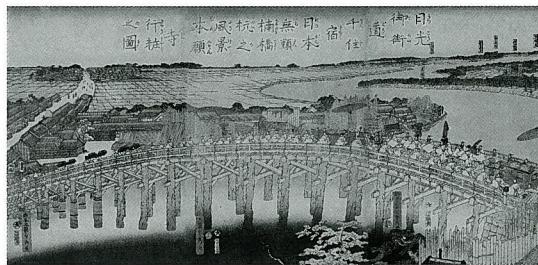
松尾芭蕉、旅立ちの日に思いを馳せて 「第27回 奥の細道千住あらかわサミット」 &企画展 開催決定



写真① 松尾芭蕉の碑
(南千住6丁目
素盞雄神社境内)

芭蕉・旅立ちの地で開催決定 每年、松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」ゆかりの自治体を会場に「奥の細道サミット」が開かれています。27回目の平成26年度は「奥の細道 千住あらかわサミット」と題して荒川区において開催します。

元禄二年（一六八九）の春、松尾芭蕉は深川の庵を出て、舟に乗つて隅田川を遡りました。ご存じ「奥の細道」への旅立ちです。慣れ親しんだ左右の江戸の風景に目を遣りながら、また遙かかなたから江戸を見守る関東の靈峰富士、筑波の峰に旅の無事を祈願しつつ、小舟に身を任せ、江戸からの別離にふさわしい場所へと向かつたのでした。その場所とは紀行文「おくのほそ道」に「千住という所にて舟をあがれば」と記



写真② 「日光御街道千住宿日本無類楠橋杭之風景本願寺行粧之図」慶應元年（1865）橋本貞秀画

は、毎年小学生が招待され、毎年当区からも選手を派遣しました。この大会に

荒川ふるさと文化館だより

荒川区教育委員会
荒川ふるさと文化館
荒川区南千住6-63-1
TEL 03(3807)9234
登録(25)0049-02号

された「千住」です
(写真②)。

そして、この旅立ちの時に詠まれたのが「行く春や鳥啼き魚の目は泪」の矢立て初めの句です。この句と芭蕉の坐像が刻まれた文政三年

（一八二〇）銘の松尾芭蕉の碑（写真①）（区指定有形文化財）が南千住の素盞雄神社に残ります。

プレイベントと嬉しい優勝 サミット前年にあたり、今年度、荒川区・荒川区教育委員会は、さまざまなプレイベントを実施しました。一つは「俳句を探ねる小さな旅 芭蕉・梅翁・一茶」と題したパネル展。平成25年10月16日～12月1日まで当館で行い、各地に建つ句碑と発句をパネルで紹介しました。

この他、同年10月21日に記念講演会とトークショーカーを、日暮里サニーホールで開催しました。第一部は俳人金子兜太氏を迎えての講演会、第二部は荒川区観光大使、画家城戸真亜子氏

のトークショーが行われました。また、区のボランティアガイドによる千住まちあるきツアーも実施しました。

こうした区内でのイベントの他、同年11月10日、「奥の細道」結びの地である岐阜県大垣市で開かれた第10回東西全国俳句相撲大会に、交流都市相撲大会に、交流都市である当区からも選手を派遣しました。この大会に



写真④ 第6回子ども俳句相撲大会。
熱戦が終わって全員集合。

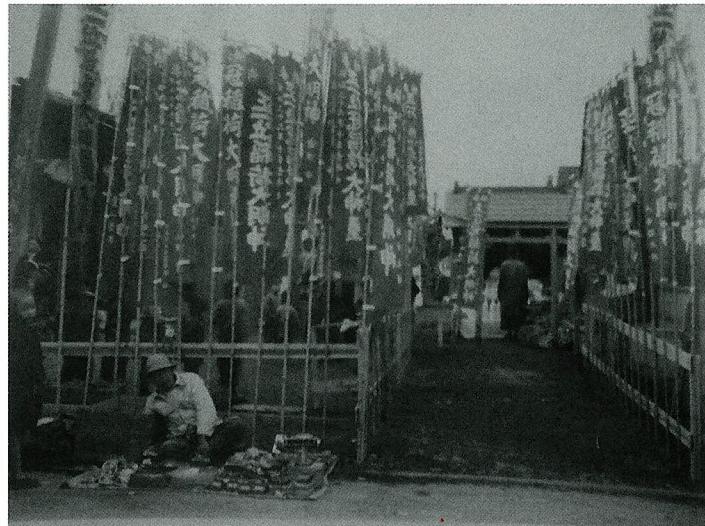


写真③ 第10回東西全国俳句相撲大会に優勝した
小学五年生チームUAのパフォーマンス

れていますが、今回は小学生の部と一般の部に3チームが出場し、対戦の結果、荒川区の小学生チームが初優勝するという輝かしい成果を収め（写真③）、もう一組の小学生チームも関脇に入賞し、一般の部に参加したチームも殊勲賞に入賞しました。（写真④）。結果、大垣市の六年生のチームが優勝しました。

第6回奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会

古写真の中の歴史世界② 冠稻荷の初午



写真① 冠稻荷祭礼 热海家蔵

【荒川区土木誌】

治通りから西南西に分岐している道路である。その始まりは、大正5年（1916）に、町の旧家であった冠稲荷四郎が所有地を整理して、宅地を造成した際に造られた時にさかのぼる。造成にあたって、宅地は冠二・三丁目と命名された。当初は私設道路だったのである。

冠稲荷は、その通り沿いにある（西日暮里六丁目）。かつては、毎年3月18日を例祭日としていた【日暮里町史】。もともと冠家の屋敷内にあり、同9、10年頃、屋敷地の一部が鉄道用地となつた際、冠町の有志によつてこの地に遷されたという。JRの線路から遷された場所までは、同じ屋敷内でも恐らく約500mは離れているから、冠家が大地主だったことは想像に難くない。

元来、作守稻荷と呼ばれ、冠家に繁栄をもたらしたとされる同家の屋敷神であった【日暮里町政治史】。そして遷宮後、冠町の鎮守となるのである【北豊島郡総覧】。

*最後になりますが、調査をお許しいただきました熱海家の皆さん、また、冠稲荷の存在をご教示いただき、熱海家を紹介くださった西日暮里北部町会の岩瀬全彦会長に感謝申し上げます。

所持者によるところの写真は、昭和20年代（1945～1954）に撮影されたものであるという（写真①）。まず目に入つてくるのは、多数の轍である。「正一位稻荷大明神」とか、「冠稻荷大明神」と染め抜かれている。ここは冠稲荷であり、お祭りの古写真とわかる。

奥に見えるのが稻荷の社であり、参詣者が手を合わせている。少し見づらいが、社には一升瓶、鳥居の脇には籠に載せられたたくさん野菜が見える。また、轍の向こうに子どもたちの姿が見え、手前にはおもちゃを売る露店商が店を開きしている。

○

ところでの冠稲荷は、当館にとって、近年まで所在地を把握できていない、幻の神社だった。現在、冠新道を歩いていても目にすることはできない。

○ ○

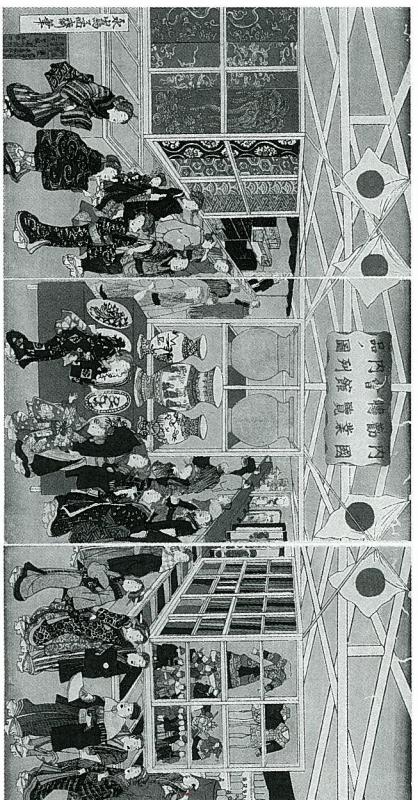
写真② 現在の冠稻荷
2013年2月11日撮影

冠稲荷の「冠」とは、冠新道の「冠」と同じ意味である。周知の通り、冠新道とは、西日暮里六丁目の明

い。ビルの2階に祀られている（写真②）。

この度、冠稲荷を管理する熱海家の御好意で初午神事を見学させてもらい、お話を聞かせていただきました。同家は、戦後、冠稲荷の隣の土地で八百屋を開き、その後、冠家から稻荷のある土地の購入を持ちかけられ取得したのだという。と同時に、町の人びとからは、地元にとって大切な神社だから、以前と同様にお参りさせてほしいと懇願されたそうだ。そこで、熱海家では、その土地を野菜の仕入れのトラックが駐車スペースに使い、境内は地域住民に解放したのだという。初午の際は、写真の通り、境内に轍を立てて、地元の人びとをはじめ、野菜の市場関係者などと一緒に祀りしたらしい。地元の人びとが奉納された昭和29年の轍も現存している。ビルの2階に遷された今日では、あまり地元の人びとが訪れるることは少なくなったというが、毎年2月11日、鉄砲洲稻荷神社の神主を招いて、今も初午神事を行っている。

第2回国の博覧会に参加した多くの出品者は、第1回国にも名を連ねています。第2回国の出品目録と「東京名工鑑」(明治12年)を合わせて見ると、現在の荒川区域からの出品者として、時絵工の豊川彦八、象牙工の井上菊太郎、金工の伊藤勝見、芝山象嵌の人芸品にも影響を及ぼしました。博覧会は所謂コクーンカルで褒賞制であったことと、また商品見本市としての役割も持っていたことから、出品し褒賞を受ければ、信用を得て販路が広がるという効果が期待できました。明治初期の博覧会へ出品した製品の内容は、職人自らといつても政府からの勧誘により成立していたといつう背景もありますが、金工の職人では廃刀令により刀の需要がなくなると、額や皿、花瓶などを作ることになり、象牙工は、これまで作っていた根付から輸出品として置物などを手がけるようになったのです。この錦絵は職人たちがたくさんつく生きていた時代を映す一枚の鏡ともいえるのではありませんか？



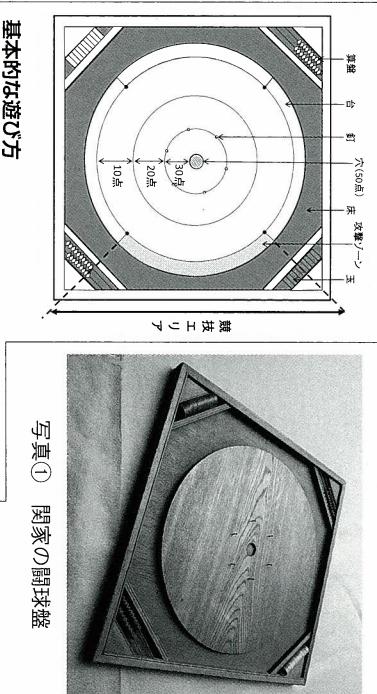
うれしいお題いもつ

ପ୍ରାଚୀନ ଶାସକିରେ ଦେଖିଲୁଗା ହେଉଥିଲା କିମ୍ବା କିମ୍ବା

の農業や日常生活の道具から、農具や衣食住の道具、書籍など種類が多岐にわたりますが、その中で特徴的なものとしては、手作りのサルボや着せ替え人形、つみき、トランプ、百人一首などがあります。これらは親が子どもに買ったり手配したものや、一人一人で縫いあわせたもので、関家が裕福な家庭であつたことによって、近い田の上には釣が6本打たれ、さらに中心に約60cm四方の縁がついた正方形で、中央に円盤がついています。円盤には同市田が3個描かれており、中心に見慣れないゲーム盤がひとつあります(写真①)。

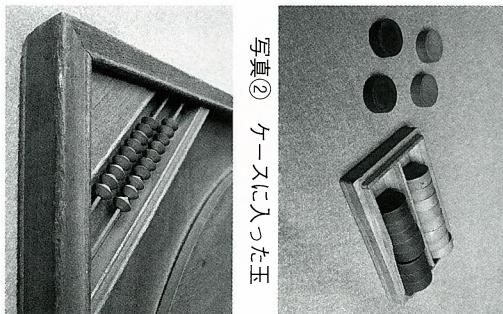
気になる遊具がひとつ…彼らの遊具の中には、約1cmの平たい駒のついた、ケースの中に焦茶色と薄茶色でそれぞれ10個ずつ入っています(写真②)。

算盤の軸と円盤に打たれた釣、穴にはめられた鉤製の皿を除けば、遊具としては落ちていた骨董気を漂す色の円盤や縁は、遊具にしては落ち着いた雰囲気を漂す



卷之三

基本的な遊び方



写真② ケースに入った玉

ムロード』(淡海文庫10、一九七九年)川ふるひと文化館、一〇〇六年)、杉原正樹『カロ

【参考文献】『あらかわとお野菜 都市とお野菜』(世遊びを家族で楽しんでいた旧家の娛樂を知ることができる興味深い資料といえます。〉関悦子

思われます。関家の闘球盤は、当時流行した話題の遊びを思わせます。関家の闘球盤も台の木目が美しく、縁は指物の井戸と思われる大正時代当時はおそらく高価な遊具だったと思われます。丁寧な作りで(写真③)、入手したと用意匠もいたもの細部まで丁寧に作られていました。この盤は長い年月を経ても狂いが少なく、使われる材も技術が使われています。腕の良い職人によつて作られた盤は、指物師や大工が手掛け、玉には木工彫彫刻が使われています。彦根市の古い口口盤は、指物師が紹介されています。彦根市の古い普及していた頃、闘球盤が都会からの高価なお土産だったといふ話が紹介されています。彦根市からの大正から昭和初期のカロム盤がお金持の子弟の遊びで使われていたといつても残っています。彦根市でのカロム盤や闘球盤に関する書き込みによると、市(滋賀県)で広く遊ばれていた遊具で、明治時代から使われていたといつても残っています。彦根市での遊具の中です。

- 4月1日 平成24年度の区登録・指定文化財を区報にて紹介。
- 4月27日～6月2日 「速報!あらかわの文化財展」開催。平成24年度の区登録・指定文化財版画彫閻岡裕介(号:扇舎)、無形民俗住六丁目にて観月会と句会を開催。
- 5月24日～6月14日 「古文書に親しむ」(初級編)化財や、新たに収集した資料を紹介。
- 5月27日 第1回文化財保護審議会開催。平成25年度区登録・指定文化財諸問題。文化財保護審議会委員7名委嘱(新規2名、再任5名)。
- 6月9日 史跡めぐり「三河島の山車人形を見に行こう2013」実施。区指定有形民俗文化財の三河島山車人形・稻田姫組立技術三河島の職人さん、区内全24の小学校で実施。
- 10月2日～11月28日 学校職人教室実施。伝統工芸河島山車人形・稻田姫組立技術三河島山車人形・稻田姫保存会、「登録文化財三技術荒川中央町会、無形民俗文化財三文化財二三河島山車人形・熊坂長範組立細道矢立初めの地観月会」実施。千住住六丁目にて観月会と句会を開催。
- 10月16日～12月1日 パネル展「俳句を探ねの小さな旅」芭蕉・梅翁・一茶」を、「奥の細道千住あらかわサミツト」のプレイヤーべントとして開催。
- 11月11日 石塚昭一郎氏(文化財保護審議会委員・正一郎)完成。また、同氏の作品等を購入。
- 11月15日 史跡説明板「玄琳牡丹敷跡」改訂版(区指定無形文化財工芸技術)刷毛齋藤正一郎完成。また、同氏の作品等を購入。
- 11月15日 斎藤正一郎氏(区指定無形文化財保持者・刷毛)が「東京都優秀技能者(東京マスクタ)」知事賞を受賞。
- 12月27日 第2回文化財保護審議会開催(答申案)。
- 1月5～3月 第5期区伝統工芸技術継承者育成支援事業短期現場実習ステップ1開始。
- 1月17日 第3回文化財保護審議会開催(答申)。
- 2月8日～3月23日 企画展「番付から見るあらかわの暮らしを調べよう」、「あらかわ調べ人道場」、「勾玉づくりにチャレンジ」、「親子で楽しむ展示解説」、「あらかわ職人道場」、企画展「東京・水、物語」開催。
- 2月14日 平成25年度区登録・指定文化財告示。
- 荒川区登録無形文化財(花かこ)昭和60年度登録(保持者の岡本勝廣(長勝)氏)荒川在住は、去る平成25年10月30日に、83歳で逝去了されました。
- 荒川区登録無形文化財(花かこ)昭和60年度登録(保持者の武闘隆(翠月)氏)西日暮里在住(は、去る平成25年11月20日に、83歳で逝去了)は、一方のご冥福をお祈り申し上げます。

平成25年度の文化館・文化財の動向

計 報

- 3月8日 第6回奥の細道矢立初めの地子ども俳句群に変更
- 3月8日 第6回奥の細道矢立初めの地子ども俳句群に変更
- 3月27日 相撲大会開催。
- 3月28日 史跡説明板「真先錢座跡」改訂版(改訂版)を商千住三丁目に設置。
- 荒川区指定無形文化財(裁縫)平成12年度指定(保持者の岡本勝廣(長勝)氏)荒川在住は、去る平成25年10月30日に、83歳で逝去了)は、去る平成25年11月30日に、83歳で逝去了)。

